

台風に対する当面の農作物対策

H10.10.16

台風が接近しており、今後の進路によれば本県にも大きな被害がでる恐れがありますので、「作物気象災害対策指針」(平成4年3月)及び下記事項を参考に対策を徹底してください。

水 稲

事前対策

架干し中のものは、稲架の補強を十分に行う。

野 菜

今回の台風は大雨による被害の発生する恐れがあるので以下の対策を徹底する。

1 ハウス対策

1) 事前の対策

ア) 天窓、側窓、出入口等は開かないよう密閉、固定する。被覆資材は押さえ金具、バンドのしめなおし、バンド固定パイプの補強、屋根、妻、接地部のビニルのたるみ破れを補修する。

イ) 排水溝を整備し、大雨に備える。

ウ) 休閒ハウスはビニルを除く。

エ) 換気せざるを得ない場合は風下側で行なう。

2) 事後対策

ア) 風が弱まったら風下側から順次開いて換気し、骨組の変形、緩み、フィルムの破れは補修する。

イ) たまった水はただちに排出する。畝から浸出する水も通路の穴を掘って集め排出する。

ウ) 支柱、誘引紐の切れ、緩みは点検立て直す。

エ) 速効性の液肥を施用して草勢の回復を図る。

オ) 殺菌剤を散布する。

2 露地野菜

1) 事前の対策

ア) 防風ネット、支柱の補強、排水溝を整備し、出荷可能な果実は収穫する。

イ) ナス、ピーマン等は強風が茎葉を直撃するようであれば支柱を倒す。

ウ) ブロッコリー等では土寄せして株元を補強する。

2) 事後対策

ア) たまった水は直ちに排出し、根を傷める恐れのない場合は中耕する。

イ) 支柱を整理し、倒した支柱をたてなおす。

ウ) 出荷できるものは早めに収穫し、折れた枝、傷果等は除き、速効性液肥の施用葉面散布を行なう。

エ) 降雨後殺菌剤を散布する。キャベツ等アブラナ科野菜は強風雨で傷がつきやすく、雨水の跳ね上がりにより軟腐病、黒腐病が発生するおそれがあるので速やかに散布する。

果 樹

1．事前対策

(1) 施設

- ・収穫が終わったハウスで被覆のビニルがある場合は直ちに除去し、ビニルの破損やハウスの被害を防止する。
- ・被覆している場合は風下のサイドの一部を風抜きように開け（ネットはあって良い）筋交（スジカイ）を入れハウスの強度を高める。また、押さえのバンド等の締め直しをする。
- ・被覆したハウスが倒壊しそうな時は、風下側からビニルを切り裂く。
- ・果樹棚はフレ止めの控え線、突き上げ柱ともにしっかり固定しておく。
- ・飛散して被覆を破損しそうな物を施設周囲から除去しておく。

(2) 露地・作物

- ・収穫できるものは強風前にできるだけ収穫しておく。
- ・風当たりの強いところでは、支柱による倒伏防止や枝裂け防止の誘引等を行う。
- ・西条柿でマルチを行っている園は、風で飛ばされるおそれがあるので除去するか十分固定する。
- ・なしの晩生種は落下しないように果実をネット等で保護する。
- ・柿は大雨による滞水で根の障害を受けると、樹上軟化の多発生が予想されるので表面排水が速やかに園外へ排出されるように園内排水溝をもうける。特に粘質土壌でタコツボにより植え付けされたところでは注意が必要である。
- ・なしでは大雨により滞水すると根の障害から早期落葉となるので、表面水の速やかな排水対策を行う。

(3) その他

- ・傾斜地の果樹園では、今後の大雨によって崩れる心配があるので特に注意を要する。

2．事後対策

(1) 施設

- ・果樹棚が倒壊した場合には、下から防除できる程度に持ち上げ、薬剤散布を行いその後に棚の修復をする。

(2) 露地・作物

- ・葉、枝、果実等に傷が多くついており病菌の侵入が予想されるので、雨があがったら直ちに殺菌剤を散布する。
- ・沿岸部を通過した場合は、潮害の恐れもあるので台風通過後に降雨がなければ、葉の塩分付着状況（なめて判断）を見て多量の散水を行う。
- ・倒木は新たに根が切れない程度に引き起こし、主幹部の地際部に盛り土をして踏みつけ、晴ればかん水して乾燥を防ぎ、再び揺すられないように支柱でしっかり固定をする。
- ・太い枝が折損した場合は枯れ込みが入らないように、ひび割れた部分は切り返して保護剤を塗る。
- ・葉の破れ等が著しい樹や、新梢が折損した樹で新しい芽が伸びてきた場合は新葉2～3枚で摘心し、成葉化をはかる。

- ・樹勢回復には有機質を主体とした肥料を施す。(ただし遅伸びを助長するようなNの多施用はしない。)
- ・落葉や葉の破れ等が大きく、果実がついている場合は葉数(葉面積)に見合うように摘果する。ただし、柿では全落葉でも着色するので、軟化した果実や損傷の程度が大きいもの、果実の小さいものを最初に除く。

(3) その他

- ・樹体の障害は被害直後から徐々に現れてくるので、数日間は樹園地を回り樹(果実、葉等)の変化を観察する。

茶

<作物気象災害対策指針を参考に、特に次の点に注意する。>

1) 事前対策

- ・幼木園では、強風で幹が揺さぶられないよう対策を講じておく。

2) 事後対策

- ・葉ずれ・葉いたみが発生した場合は、殺菌剤を散布する。
- ・幼木園などで、強風によって幹が動かされたものは、早めに土寄せを行い、敷草を補給して地際部や根を保護する。
- ・葉に塩分を認めたときは、できるだけ早く水洗する。10a当たり4～5トン散水する。
- ・葉が塩害により変色した場合、被害軽微で摘採期のときは、被害葉が落葉するまで待つて摘採するか、被害葉を払い落としてから摘採する。
- ・被害が先枯れ・枝枯れなど大きい場合には、被害直後にせん除せず、被害部位を確認し、樹勢の回復を待って、秋あるいは翌年の春に枯死部の直下でせん除する。

大豆

事前対策

雨害に備えて、排水溝の点検補修を行う。

事後対策

地表の滞水を速やかに排除する。

花き

台風が接近しており、万全の対策を行って、被害を最小限に抑える必要があります。台風被害は強風と大雨に伴うものであり、さらに台風の通過コースによっては'91年の19号台風のように塩害を生じることもあるので台風の動きに注意を払った的確な対応が必要です。

1. 事前対策

- ・強風により、倒伏、茎折れ、花、葉の損傷、黒変等を生じるので、支柱立て誘引の補強を行う。また、防風ネットの補強修理を実施する。
- ・木片、小石等の飛来により、ビニルやガラスが破損するので、ビニルハウス等施設周辺の片付けを行なう。
- ・ビニルハウスはビニルの破れ箇所の補修、押さえバンドの補強、押さえバンド取り付けパ

イブの浮き上がり防止をする。また天窓や横窓等隙間が出来ないように修理しておく。

- ・強風時は天窓、側窓、出入口は密閉固定する。ビニルハウスで中に作物が栽培されていない場合は、前もってビニルを剥いておく。作物が栽培されている場合は、密閉するがハウスが強風に耐えられないと判断されるときは風下側からビニルを切り裂き倒壊を防ぐことも考慮する必要があるが、あくまでも人の安全を優先して行なうようにする。
- ・大雨に対しては圃場周辺の排水路や排水口を掃除して水の流れをよくしておき、一時的な増水による圃場内への浸水を防ぐとともに、圃場内の水が速やかに圃場外へ流れ出るようにする。場合によってはポンプによる強制排水も必要となる。
- ・収穫可能なものは早めに収穫する。
- ・露地に置いてあるポットハボタン等は葉の傷みを防ぐためにべたがけ資材による被覆を行う。

2. 事後対策

- ・圃場内の停滞水は速やかに排水し、過湿による障害発生を防ぐ。冠水により汚泥を被った株は、灌水で洗い流す。
- ・倒伏した株は引き起こし、支柱の立て直しや誘引をやり直す。定植間もない苗で状況から見て植えかえたほうがよい場合は、早急に苗の手配または播き直しを行う。
- ・被害の激しい株や落葉、枯葉は取り去って園内を清潔にする。
- ・病害発生防止のためジネブ水和剤500倍液、銅水和剤500倍液等の殺菌剤を散布し予防する。例えばハボタンでは黒腐れ病が多発する恐れがあるので薬剤散布を行う必要がある。害虫の発生にも注意を怠らないこと。
- ・生育状況によっては草勢回復のため速効性の液肥を施用するか、薄い濃度で葉面散布を2～3回行う。
- ・マルチ栽培で浸水により土壌が過湿になっている場合は、マルチを除き土壌を乾かすようにする。
- ・大雨後の根が弱った状態で強光線、乾風を受けると、急激な萎れが生じやすいので、日除けや葉水等を短期間行って茎葉の萎れを防止する。
- ・風台風の場合は、台風の通り方によっては塩害の恐れもあるのでその場合は、ただちに植物体を水で洗い流す。
- ・ビニルの破損、パイプの曲がり等の補修を行う。
- ・電照中のキクで万一停電した場合は、1～2日以内なら花芽分化することはないので再度電照を継続する。停電が長期に渡り花芽分化が進んだ場合、草丈がある程度確保されていればそのまま電照を打ち切ることも検討する。

畜産

1. 事前対策

- ・牛舎周りを再点検して下さい。板、トタン等が外れて音が発生すると、牛が驚き思わぬ事故につながりますので注意して下さい。
- ・風雨により乾草等飼料作物が濡れて、品質が低下しないよう、安全な場所に移動させて下さい。

- ・飼料作物は、雨害に備えて、排水溝の点検補修を行う。

2. 事後対策

- ・地表の滞水を速やかに排除して下さい。
- ・牛舎内等への浸水が発生し、病気等の発症したら直ちに診療を受けましょう。